

2016年4月3日(日)朝10:10～

復活節第2、オリーブの会等

4月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：神信仰の戦いの勧め

聖書:ユダ 全1章1～4節

<口語訳>

新約聖書384頁

ユダ 全1章1～4節

<新共同訳>

新約聖書450頁

ユダ 全1章1～4節

<新改訳第3版>

新約聖書474頁

ユダ 全1章1～4節<塚本訳>

新約聖書773頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ユダ書は、エルサレム教会の議長ヤコブの弟ユダが、教会の人々を迷わせた偽教師、偽指導者に迷わされないよう、警告を与えた書簡です。

◇ユダ書全1章1～2節は、挨拶、3～4節は、偽教師の忍び込みの提示と神信仰を持つての偽教師との戦いの勧めです。

⇒神信仰に立って生きようとする時、時代背景が異なっても、なんらかの戦いは、必ずと言っていいほどあります。

⇒ユダ書の宛先は、不明ですが、旧約の出来事に言及しつつ、警告を与えていることからユダヤ人キリスト者ではないかと推測されています。

⇒偽教師・異端が、Ⅱペテロ2章の偽教師・異端とよく似ていることから、同じ誘惑者たちへの書簡で、Ⅱペテロ書より後に認めたものと推測されています。

⇒偽教師・異端は、今日の教会にも誘惑者として、神の御子イエス・キリスト様への背信を誘導しています。

本論；

◇本日、ユダ書全1章1～4節から主の使信に
思い・心をとめます。

◆ユダ全1章1～4節；ユダは、神の御子
イエス・キリスト様を告白しない不敬虔な
者が教会に入り込んでいると警告しています。

◇1～2節；塚本訳◆挨拶

「1 イエス・キリストの奴隷、且つヤコブの兄弟
(なる)ユダ(より、)父なる神に愛され、
イエス・キリストの(再び来たり給う時の)
ために守られている、召された人達に(手紙
を遺る。)

2 (神の)憐憫と平安と愛、君達に豊かならんこ
とを！

◇3～4節；塚本訳◆手紙を書く動機——
不敬虔な人達に注意せよ

3 愛する者よ、(実は)非常な熱意をもって私
達に通ずる救い(の一般問題)について
君達に書こうと考えていたところ、聖徒達に
最終的に伝えられた(唯一の)信仰のために
戦うように勧めるこの手紙を書く必要が起
こった。

4 というのは或る人達、(すなわち、)私達の神の恩恵を放埒に変え、私達の唯一の支配者また主なるイエス・キリストを否定する不敬虔な人達が、(君達の中に)潜り込んで来たからである——彼らが(次に記す)こんな審判を受けることは、古くから(預言者達によって)予め書かれているのである——」と、ユダは語っています。

◇ 1～2節 ; 「イエス・キリストの奴隷、且つヤコブの兄弟(なる)ユダ」より、「父なる神に愛され、イエス・キリストの(再び来たり給う時の)ために守られている、召された人達」へ、「(神の)憐憫と平安と愛、君達に豊かならんことを」と、ユダは語っています。

⇒ユダは、神の御子イエス・キリスト様の弟と言わず、「イエス・キリストの奴隷、且つヤコブの兄弟(なる)ユダ」と名乗っていることから神の御子イエス・キリスト様を主(メシヤ)と、父祖たちが長い間求めて来たお方であることを告白しています。

⇒ユダ自身の敬虔さが、挨拶ことばの中に纏められています。

◇ 3～4節 ; 「愛する者よ、(実は)非常な熱意をもって私達に共通する救い(の一般問題)について君達に書こうと考えていたところ、聖徒達に最終的に伝えられた(唯一の)信仰のために戦うように勧めるこの手紙を書く必要が起こった」、「私達の神の恩恵を放埒に変え、私達の唯一の支配者また主なるイエス・キリストを否定する不敬虔な人達が、(君達の中に)潜り込んで来た」、「彼らが(次に記す)こんな審判を受けることは、古くから(預言者達によって)予め書かれているのである」と、ユダが、この書簡を書くに至った動機が明確に示されています。

⇒ 偽教師・異端が、「神の御子イエス・キリスト様」を「主(メシヤ)」と告白させないように誘惑していることが、ユダ書を認める動機となっているのです。

⇒ 4節で、「不敬虔 $\alpha\sigma\epsilon\beta\eta\varsigma$ 」は、「敬虔 $\epsilon\upsilon\sigma\epsilon\beta\epsilon\iota\alpha$ 」を否定することばで、「神礼拝をする $\sigma\acute{\epsilon}\beta\omicron\mu\alpha\iota$ 」ことを妨げる生活者を指しています。

⇒ 「神の御子イエス・キリスト様のからだ」と呼ばれる「教会のいのちは、神礼拝」です。

- ⇒EY師は、「アシュラム」=「祈りとみことば」の生活訓練の場を提供するため、全力を注いで下さいましたが、「敬虔」の「訓練・鍛錬γυμνασία」とも呼んでおられます。
- ⇒「敬虔εὐσέβεια」は「神礼拝をするσέβομαι」ことを「訓練・鍛錬γυμνασία」することで、身について来るもので、その基本が、「神のみことばに聴き従い」、「神に祈る」生活なのです。
- ⇒ユダの時代の教会は、「不敬虔ἀσεβής」な生活をさせる「偽教師・異端」が、「敬虔εὐσέβεια」の「訓練・鍛錬γυμνασία」、「祈りとみことば」の生活を軽んじるように誘惑する危機に晒されていたのです。
- ⇒「偽教師・異端」の中身は、今日の時代は、異なって来ていますが、「敬虔εὐσέβεια」の「訓練・鍛錬γυμνασία」、「神礼拝をするσέβομαι」ことや「神のみことばに聴き従い」、「神に祈る」生活を軽んじる点では、今日の誘惑も同じと言えます。
- ⇒C.E.ジェファーンソンが、「神礼拝の雰囲気建設」を牧師に勧めたのも、同じ動機からなのです。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ユダ書**は、エルサレム教会の議長ヤコブの弟**ユダ**が、教会の人々を迷わせた**偽教師**、**偽指導者**に迷わされないよう、**警告**を与えた書簡です。
- ◇**ユダ書全1章1～2節**は、挨拶、**3～4節**は、**偽教師の忍び込みの提示と神信仰を持つての偽教師との戦いの勧め**です。
 - ⇒**ユダ**には、**ユダヤ教の律法主義**とギリシヤ哲学・思想の流れを汲む「**グノーシス派**」と呼ばれた「**偽教師・異端**」が起っていました。
 - ⇒「**グノーシス派の偽教師・異端**」は、肉体を悪とする人々で、「**不敬虔**ἀσεβής」＝「**神の恩恵を放埒に変え**」、「**私達の唯一の支配者また主なるイエス・キリストを否定した**」のです。
 - ⇒**ユダ**は、**神の民への復帰**とともに、「**神の御子イエス・キリスト様の新しい神の民**」として生きることを目指したのです。
 - ⇒それは、**ユダヤ人宣教**を志した**ペテロの思い**に通じるものがあつたのです。
 - ⇒「**神の民の約束の地**」を目指す**ユダ**たちです。